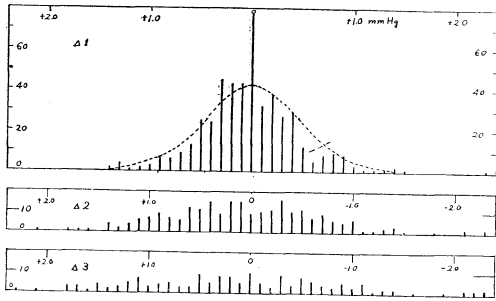
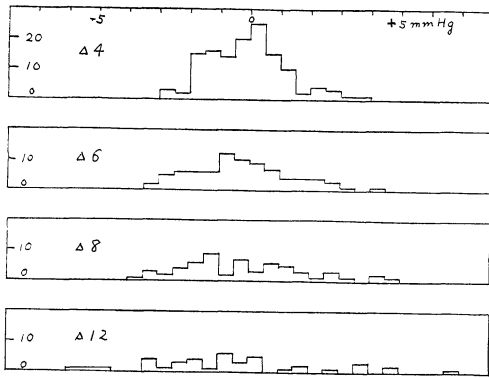


考えられる。但し最大値は+2.3mmHg に達している。 $\Delta 2$ 、 $\Delta 8$ となると著るしく分散して $\Delta 4$ 、 $\Delta 6$ となると第10b図の如く下降側への偏りが著るしくなる。然し $\Delta 8$ 、 $\Delta 12$ となると此の偏りは消えてしまう。



変化量の頻度分布 (a)

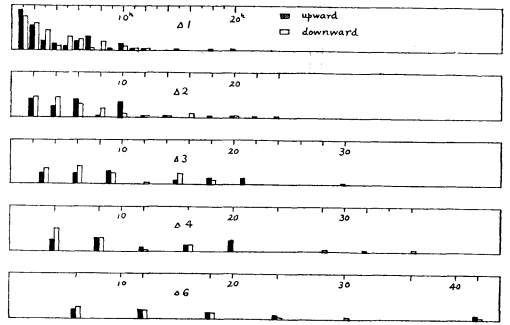


第10図 気圧変化量の頻度分布 (b)

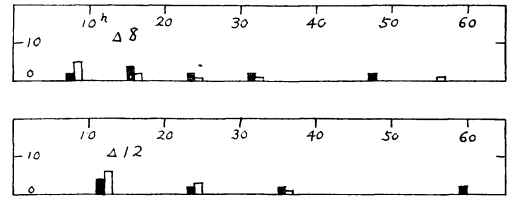
6 同一方向の変化の出現頻度

最後に変化の性質の一つとして同一方向の変化が何時間位続くかを調べて見よう。第11図では黒は上昇、白は下降を示し、横軸に継続時間、縦軸にその出現頻度を示してある。

1時間毎の変化 $\Delta 1$ では上昇下降共に10時間まで続くことがしばしばあることが見られる。長いのは上昇の方で15、18、20時間が夫々一回ありこれは谷の後面である。このとり方では1時間変化で反対符号が一度でも現れれば継続時間はそこで切れることになる。



第11図 同一方向の継続時間



第12図 同一方向の変化の継続時間

2時間毎の $\Delta 2$ では上記の反対符号が打消されて同符号となる場合が出るため継続時間は長くなる筈だが、それでも10時間以上は急に少くなっている。

8時間毎の $\Delta 8$ では15、18、21時間のものが少し増し最長は上昇の30時間となっている。

$\Delta 4$ では20時間までが主になり、ここで始めて下降の36時間が出ている。

$\Delta 6$ では42時間が上昇で2回、下降で1回出現している。

第12図では $\Delta 8$ では下降56時間、 $\Delta 12$ では上昇60時間が2回も現われている。

第1~4図に戻って見るとこのような同一方向の変化の現われ方も見方、即ち時間間隔のとり方により大きく変ることは明白であるが、大きな谷について見れば1月の第一の谷が下り14時間、上り19時間、4月の谷の上りが30時間、7月の谷が下り36時間、上り14時間、10月の第一の谷が上り20時間で、これ位を常識と考えるべきであろう (1962. 10. 24記)

気象界消息

1. 宮古島にレーダー

宮古島測候所に気象用レーダーが設置されることになった。このレーダーは東芝、川崎工場製作のもので、周波

数は5,300メガサイクル、出力は300キロワットとのこと。

2. 吉武氏宮古島に出張

吉武素二氏は気象用レーダーの検査指導および技術指導のために宮古島に3月5日から11日まで出張された。

(137頁へつづく)